

野北 市は今までもいろいろな大きな事業をしてきたが、大部分を過疎債の起債で12年間の償還をしていたため大きな問題が無かったと思っている。12年での償還は可能か。

答弁 明確な答弁はありませんでした。

野北 過疎債の起債が認められる割合は決まったのか。

答弁 現在、県の担当課と協議を進めています。

野北 新公立病院開設に必要な金額と起債に対する償還の方法はどのようなになっているのか。

答弁 移設費の約2億円を除くと約75億円、国庫補助金を約10億円見込んでおり、残りの約65億円の起債を予定しており、起債の償還(返済)期間は、建物については30年を想定しています。

新公立病院について



野北 悟

野北 現金で赤字を出さなかった場合の病院維持に係る市の負担は、建設にかかった費用の単独負担を30年で割った金額となるが、市の単独負担を30年で割ると年間幾らになるのか。

答弁 来年行う基本設計の中で決定していきますが、現在の建設事業費は耐震構造の物で、免震構造での建設では4億円程度のコストアップになると試算しています。

野北 現金で赤字を出さなかった場合の病院維持に係る市の負担は、建設にかかった費用の単独負担を30年で割った金額となるが、市の単独負担を30年で割ると年間幾らになるのか。

答弁 来年行う基本設計の中で決定していきますが、現在の建設事業費は耐震構造の物で、免震構造での建設では4億円程度のコストアップになると試算しています。

野北 現金で赤字を出さなかった場合の病院維持に係る市の負担は、建設にかかった費用の単独負担を30年で割った金額となるが、市の単独負担を30年で割ると年間幾らになるのか。

答弁 来年行う基本設計の中で決定していきますが、現在の建設事業費は耐震構造の物で、免震構造での建設では4億円程度のコストアップになると試算しています。

野北 建物の建築工法は、また、工法によって費用は変わるのか。

答弁 来年行う基本設計の中で決定していきますが、現在の建設事業費は耐震構造の物で、免震構造での建設では4億円程度のコストアップになると試算しています。

財政的な不安要素

令和元年度 経常収支比率
103.6%

新公立病院建設及び運営による新たな負担
建設費65億円に対する市の負担分
年間約7,000万円×30年=約21億円
現金での赤字が出た場合は全額多久市負担

野北 公立病院の存在意義には地域に不足している医療を補うという部分があるが、必要な診療科目を確保できるのか。

答弁 医師確保に努めて参ります。

野北 30年間公立病院として経営すると覚書を交わしているが、直接の経営だけなのか。他の法人と共同で新たな医療法人を作ることは可能なのか。

答弁 現時点では想定をしておりません。



小城市民病院



多久市立病院

【その他の質問】
▼公共施設の維持管理計画について質問しました。



飯守 康洋

市が行う施策・事務作業の進行管理に関して

飯守 P D C Aサイクルとは。

答弁 マスタープラン等の実行に関して使っているP D C Aサイクルですが、Pは「プラン」、計画すること、Dは「ドゥ」、実行すること、Cは「チェック」、評価すること、Aは「アクション」、行動や改善を意味するもので、評価に基づいてさらに改めるべきは改め、業務の改善に生かしていく、これらを繰り返すというものです。

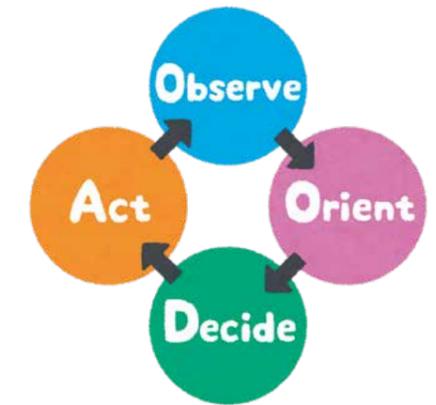
P D C Aサイクルは、この4段階を1周しながら、いわゆるサイクルとして回しながら次のP D C Aサイクルにつなげていくことで、らせんを描くように一周ごとに各段階のレベル、質をあげていくことに努めながら継続的に業務を改善するというもので、国、地方自治体等の各種計画の多くでもこの手法が用いられています。



飯守 O O D A(ウーダ)ループとは。

答弁 米国の軍事戦略家ジョン・ボイドさんという方が考案されたようですが、先が読めないような状況とか不測の事態の中にあつて成果を出さなければならぬときに、意思決定をどうするかというのは大変重要なこととなりますが、これに資するために考えられたようです。

具体的には、Oは「オブザーブ」、観察をすること、あらゆる情報を集めていく意味。次のOは「オリエンツ」、状況判断、情勢判断をして方向付けしていくことです。Dは「ディサイド」、意思決定をする、決めるということ、Aは「アクト」、決定に従い行動するという意味です。そして、「ループ」には、実行後再び観察に戻りもう一度よ



飯守 今後、P D C AサイクルとO O D Aループをどのように使い分けていくのか。

答弁 P D C Aサイクルは、中・長期的な行政目標の達成に向けて自ら計画を作成して実行していく、そして、改善を続けていくためにそれを管理していくという意味で、今後必要不可欠な行政経営の手法です。ここに、O O D Aループを組み合わせることで、O O D Aループを組み合わせることができると、現状を把握、分析し

りよくしていく「フィードバック」と、いろいろな事態の変化に臨機応変に対応しながら、瞬時に新たな意思決定を行い実行する「フィード・フォワード」の2つの性質があるとされています。



て、時代の変化、事態の変化に合わせて新たな政策や対策をより効果的に実行していくことができるだろうと考えられます。そういった意味で、P D C AサイクルとO O D Aループの両者を、目標に沿って使い分けて相互補完的に活用することが肝要かと思えます。